

答えかた③

◆ けん太さんは、聞かれたことに、どのように答えたらいいでしょうか。ア～ウから^{えら}選び、^{きごう}記号に○をつけましょう。

1 お母さんがけん太さんに聞いています。
「今日のプールはどうだった？」

ア：4時間目だったよ。

イ：プールは^{おくじょう}屋上にあってね、四角くて25メートルあるんだ。

ウ：水が^{つめ}冷たくて^{さむ}寒かったよ。ブロック^{ひろ}拾いが楽しかった。

2 先生がけん太さんに聞いています。
「何か^{なら}習^{ごと}いはやっていますか？」

ア：はい。

イ：はい。^{れんしゅう}練習が^{たいへん}とても大変です。

ウ：はい。ピアノとサッカーを習っています。

◆ ^{もんだい}問題を^{えら}読んで、^{えら}答えを^{えら}選びましょう。

「もう、おなかいっぱいだよ」

^{ひろむ}広歩は、帰ってきたお父さんが出した、おみやげの
たこやきを、^{ざんねん}残念そうに見ていた。

「タイミングが^{わる}悪いな」

広歩がそう言うと、お母さんは^{しょっき}食器のかたづけを
しながら

「^{あたた}温めれば、明日でもおいしく食べられるわよ」
と言った。

(1) 広歩は、どうしておなかがいっぱいなのですか。

ふさわしいものに○をつけましょう。

- () ^{ゆうはん}夕飯を食べたから
- () たこやきを食べたから
- () ^{ほか}他のおやつを食べたから

(2) 広歩は、たこやきが^す好きですか、きれいですか。

正しいほうに○をつけましょう。

- () 好き
- () きれい

◆ お話を読んで、^{もんだい}問題に答えましょう。

けん太さんは、帰りの会のあと、^{だいす}大好きな電車のお話を先生にしています。話を始めて少しすると、先生が時計を見て、「先生、このあと^{かいぎ}会議があるから」と言いました。けん太さんは、「そうなんですね。それで、この前^の乗った^{しんがた}新型の電車が……」と、話し^{つづ}続けています。

- (1) 先生が「会議があるから」と言ったのには、どのような^{いみ}意味がありましたか。正しいほうに○をつけましょう。
- () このあと会議があるということを^{つた}伝えたかった。
- () 会議があるから、もう話を聞けないよと言いたかった。
- (2) 上の文の^{せつめい}説明として正しいものに○、まちがっているものに×をつけましょう。
- () 「会議があるからもう話を聞けないよ」ということに、けん太さんは気づいていない。
- () 先生は今、もっと電車のお話を聞きたい。
- () 先生は、会議に行かなければいけないと、あせっている。
- () けん太さんは、先生の言ったことをよく考えていない。

●テーマ1 答えかた

- 03 [1] ウ…感想や様子を聞かれている。プールの形を聞かれているわけではないが、イと回答する子も多いので、何を聞かれているのかに気づかせたい。
- [2] ウ…どのような習い事をしているのかを聞いているため、一般的には何を習っているのかを回答する場合がほとんど。アでもよいが、アを選ぶ場合には、日常でも、さまざまな場面で、相手の求めている回答をせず「はい」だけで止まってしまっている可能性がある。

※聞かれたことに対してどう答えるのかを考えるのが「テーマ1 答えかた」の問題になります。特に、相手がどのような意図で聞いているのかを考える練習が中心になります。

●テーマ4 文の流れを読む

- 25 (1) 一番上…「帰ってきたお父さん」「食器のかたづけ」から夕食後と分かる。
- (2) 上…文脈から「おなかがいっぱいであれば食べたい」という気持ちが分かる。

※「テーマ4 文の流れを読む」では、文中に答えが明記されていない事柄を文脈から考えます。文の中から答えを探すのではなく、文の中のヒントを元に状況をとらえることを目指します。本テーマは、読解力の向上に役立つ問題だけでなく、社会性やコミュニケーションの育成につながる問題も収録しています。選択肢を隠した状態で、何と答えるのかを聞いてみるのもいいかもしれません。

●テーマ6 会話のポイント

- 34 (1) 下 (2) 上から○、×、○、○
- …場を踏まえた会話について気づきを促したい。

※「テーマ6 会話のポイント」では主に、うまくかみあっていない会話文を読み、会話の際に気づきたいことは何かを考える問題になっています。なお、問題は会話文中心ですので、どちらのセリフかが分かりにくい場合には、文を色分けすることや、支援者とお子さんなどでセリフを読み合うなど、工夫してみてください。



会話や読解の力を伸ばすには、他にも語彙力や知識量、聞く力、読んで考える力、社会性など、さまざまな力が必要になります。既刊の『10歳からのことばトレーニング』『聞くカトレーニングブック1・2』『新版読むカトレーニング』等他教材も、合わせてご活用いただければ幸いです。

本発達支援教材シリーズが、多くのお子さんの理解の助けとなることを願っています。

第2版発行に寄せて 著者（2024年3月）

【著作権およびご利用について】

※本見本教材の著作権は、株式会社クアに帰属します。

※本見本は、お子さまに実際にお試しいただくことを目的として公開しています。

ご家庭・学校・療育機関等でのおためし用として印刷し、ご利用いただくことができます。

※なお、本見本教材の全部または一部について、転載、送信、再配布、販売、その他これらに類する行為は固くお断りいたします。